

図 面 リ ス ト

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
E-0 1	図面リスト	N. S
E-0 2	電気設備 特記仕様書（１）	N. S
E-0 3	電気設備 特記仕様書（２）	N. S
E-0 4	配置図	1:500
E-0 5	電気設備 2 階平面図	1:150
E-0 6	電気設備 3 階平面図	1:150
M-0 1	機械設備 特記仕様書（１）	N. S
M-0 2	機械設備 特記仕様書（２）	N. S
M-0 3	機械設備 2 階平面図	1:150
M-0 4	機械設備 3 階平面図	1:150

4学工第39号 小出中学校特別教室エアコン設置工事		令和 4 年 7 月 (全 6 校)		章 項目		特記事項		根拠項目		章 項目		特記事項		根拠項目		章 項目		特記事項		根拠項目																																	
工 事 場 所 新潟県魚沼市古新田225番地2 地内				建 物 概 要		建 物 名 称 小 出 中 学 校		構 造 R C造		階 数 3階+PH		延べ面積 (㎡) 4,748 (敷地面積)		消防令別表第一 7項		備 考																																					
仕 様 書				I. 共 通 仕 様		1 本共通仕様及び特記仕様に記載されていない事項は、次による。 新築及び増築に係る電気設備工事においては、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（電気設備工編）」（以下「標準」という。）及び「国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修 公共建築設備工事標準図（電気設備工編）」（以下「標準図」という。）による。 改修に係る電気設備工事においては、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工編）」（以下「改修標準」という。）及び標準図による。ただし、改修標準に記載されていない事項は、標準による。		2 仕様及び改修標準に用いられている用語を、次のとおり読み替える。 (1) 「工事請負契約書」を「魚沼市財務規則 平成16年11月1日 規則第49号 別記（167条関係）建設工事請負基準約款」（以下「約款」という。）に読み替える。 (2) 「監督職員」を「監督員」に読み替える。																																													
II. 特 記 仕 様				凡 例		(1) 章と項目は、番号に○印のついたものを適用する。特記事項は、・に○印のついたものを適用する。 (2) 特記事項で○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、○印のあるものを適用する。 ○印と◎印のある場合は、両方を適用する。 (3) 根拠項目の[a-b、c、d]は、標準の第a編b章c節d項を表す。 根拠項目の[a-b、c、d]は、改修標準の第a編b章c節d項を表す。																																															
章		項目		特記事項		根拠項目		章		項目		特記事項		根拠項目		章		項目		特記事項		根拠項目																															
1 一般事項		6 発生材の処理等		＜表－5＞「発生材の処理等」とのとり。		(1-1.3.9) (1-1.9.1) (1-1.7.2) (1-1.11.2) (1-1.7.3) (1-1.11.3)		7 完成図等		下記のものを作成し提出する。なお、作成方法・部数等は監督員の指示による。 製本（複写図・施工図複写図）、 C A Dデータ、 安全に関する資料 施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。 工事完成後、整理のうえ監督員に提出する。 提出部数 3 部 工事施工状況写真の撮影は、工事に係る材料、施工及び品質管理の状況が確認できるように行うものとし、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 工事写真の撮り方 建築設備編 改訂第3版」を参考に、撮影計画書を作成して、監督員に提出する。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、撮影計画書の作成を省略できる。 提出部数 1 部 ＜表－6＞ 工事区分表による。		8 施工図等の取扱い		9 工事完成写真		9 工事施工状況写真		1 5 誘導・支援設備		1 用途		・ 庁内連絡用 ・ 身体障害者用 ・ 外来者受付用 ・ 保守用 ・ 音声誘導装置 ・ H/L等呼出装置 ・ 電話同時通話式（ ・ 親子式 ・ 相互式） ・ スピーカー形交直通話式（親子式） ・ 電話スピーカー形同時通話式（親子式） ・ 卓上形 ・ 壁掛形 ・ 組込形（ ・ ） ・ 卓上形 ・ 壁掛形 ・ テレビモニター用 ・ 撮像範囲固定式 ・ 撮像範囲調整式		(6-1.10.1) [6-2.20.1]																													
2 共通工事等		1 足場・さん橋等		※ 別契約で関係受注者が定置した物は、無償で使用できる。 ・ 本工事で設置する。 ※ 別途工事 ・ 本工事 ※ 設計ない ・ 既設建物内の一部を使用する ・ 仮設事務所内に監督員空間を ㎡程度確保する 監督員が使用できる備品として、下記のものも工事期間中現場に用意し、貸与する。 ・ 保安帽 ケ ・ 雨具 着 ・ 長靴 足 ・ 安全帯 組 構内既存の施設 ※ 利用できる（※ 有償 ・ 無償） ・ 利用できない 構内既存の施設 ※ 利用できる（※ 有償 ・ 無償） ・ 利用できない ・ 既設設備に電力計を設ける ・ 発電機を使用する 現場事務所・倉庫、下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。 すべて受注者の負担とする。 ※ 構内指示の場所に敷き均し ・ 構外搬出適切な処理 機器的の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所監修）2014年版」による。 (1) 設計用水平地震力 機器の重量〔kgf〕に、＜表－1＞設計用標準水平地震を乗じたものとする。 (2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。 ブルボックス禁止塗装箇所 ※ 天井いんべい部 ※ シャフト内 上記以外のブルボックス ※ 焼付塗装 ※ 鋼合バイント2回塗 金属製露出電線管塗装箇所 ※ 屋外 ・ 電気機械室 ・ シャフト 図面に特記のあるもの及び特殊なものを除き ※ 新金属製 ・ 樹脂製 電力設備 ジョイントボックス用 ※ 丸形 ※ 角形 通信設備 ジョイントボックス用 ※ 丸形 ・ 角形 ジョイントボックス並びに器具を安装しないプレートには略称等を用いて用途を表示する。 分電盤 ※ 指定色 ・ J E M 1 1 3 5 制御盤、配電盤 ※ 指定色 ・ J E M 1 1 3 5 長さ1m以上の入線しない管路には1.2mm以上の導入線を挿入する。 (室名)は直天井を承し、()なしの室名は二重天井を承す。 改修工事においては極力隠蔽に心がけ、やむを得ず露出となる部分は予め施工図を作成し監督員の承諾を受けること。 取外し再取付機器は、原則として清掃、調整、絶縁抵抗測定等を行った後取付ける。 ただし、絶縁劣化等により再使用に耐えない場合は、監督員に報告する。		(1-2.1.1) [1-2.2.2] [1-2.2.7] (1-2.1.1) [1-2.2.7] (1-2.2.4) [1-2.2.4] (1-2.2.8) (2-2.1.13) [2-2.1.14] (1-2.7.1) [1-2.8.1] (2-2.2.9) [2-2.2.9] (1-1.4.3) (1-2.14.1) (1-2.12.3)		9 塗装工事		10 フラッシュプレート		11 プレートの用途表示		12 塗色の仕上		13 呼び線		14 天井仕上区分		15 露出配管記録		16 再使用機器等		17 仮設備		18 電線類		19 あと施工アンカー		20 機器取付高		21 用語の説明																					
3 構内配電線路		1 電気方式		・ 高圧 3相3線式6KV ・ 低圧 3相3線式(V) ・ 低圧 単相 線式(V) ・ 低圧 単相 線式(V) ※ 地中線式(※ 管路式 ・ 直埋式) ・ 架空式 ※ 設ける。 ・ 高圧G L ー m ・ 低圧G L ー m ※ 第2種重鉛メッキ銅芯線 mm ² ・ 一般形 ・ 耐塩形 ・ 単独 ・ 共用 ・ 単独 ※ 共用 MH、HH 内支持材接地 ※ 以下の箇所について省略する(・ 電柱 ※ 外灯 ※ MH、HH) ・ 省略しない		(2-2.11.1) [2-2.12.6] [2-2.13.1] [2-2.14.6] (2-2.13.14) [2-2.15.14]		4 接地		1 種別		・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 避雷器用 ・ 一括 ・ 単独 ・ メッシュ ・ 接地極埋設 ・ 構造体利用		(2-2.13.1) [2-2.15.1]		5 電気方式		幹線 ・ 単相 3線式 200V/100V ・ 直流 2線式 100V 分岐 ・ 単相 2線式 (・ 100V ・ 200V) ・ 直流 2線式 100V 定格遮断電流は、最小のもので対称値(A)以上とする。 3 非常用照明電源 ・ 電池内蔵形 ・ 電源別置型 4 フロアコンセント ・ 収納形 ・ 上下動形 5 盤の予備ブレーカー・スベ		(2-2.14.1) [2-2.16.1]		6 動力設備		1 電気方式		幹線 ◎ 3相 3線式 電圧 ◎ 200V 400V ・ 単独接地 ◎ 共用接地 (◎ 共通母線式 ・ 金属管接地式) 予備ブレーカー(※ なし ・) スベース(※ あり ・)		(2-2.15.1) [2-2.17.1]		1 1 ヴァリイ設置		・ 発光ダイオード式情報表示盤 ・ 液晶式情報表示盤 ・ プラズマ式情報表示盤 表示方法 (・ 発光ダイオード式 ・ 液晶式 ・ プラズマ式) 表示盤 (・ 壁掛形 ・ 卓上形) 観時計形式 (・ 壁掛形 ・ ラック形 ・ 自立形) 回数数 (回線) 時計子時計 観時計に ※ 内蔵 ・ 別置壁掛形 チャイム 観時計に ※ 内蔵 ・ 別置壁掛形 ・ 時計子時計に組込		(6-1.7.1) [6-2.17.1]		1 4 拡声装置		1 用途		・ 一般放送用 ・ 非常放送用 ・ 併用 ・ 卓上形 ・ キャビネットラック形 デスク形 (W) 3 出力 4 マイクスタンド ・ 床山形 ・ 卓山形 (・ 高さ調整式 ・ 固定式) ・ ホイップ ・ FM (素子) ・ ワイヤレスマイク用 ※ 単独接地 ・		(6-1.9.1) [6-2.19.1]											
4 電気工事士		1 電気工事費500万円以上の場合登録する。 ※ 無 ・ 有 (工期 平成 年 月 日) 着手 平成 年 月 日 ～ 終了 平成 年 月 日 までとする。 次の作業は内部工事着手前に行える。ただし、着手日、作業箇所は施設及び監督員と協議のうえ決定する。 ※ 現場調査 ・ 4 監理技術者の要件 請負工事費が1億円以上の場合は、電気工事の施工に関し10年以上の実務経験を有すること。 5 電気工事士 契約電力500kW以上の電気工作物においては、次の者により施工をおこなうこと。																																																			

章	項目	特記事項	根拠項目
② 追加特記事項	① 公共事業労務費調査	※ 協力する。	
	2 工事監理方式	共同監理 ・ あり ※ なし	
	③ 適用基準等	・ 常備工事電子納品要領(案) (国土交通省大臣官房官庁営繕部営繕計画課監修)	
	4 総合図	※ 工事運行マニパル	
	⑤ 工事成績評定	※ 作成する ・ 作成しない 受注者は、工事成績評定の対象となる工事施工において、自ら立案し実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了までに所定の様式により提出することができる。(様式等は工事運行マニパルによる。)	
	⑥ アスベスト含有の建材	アスベスト含有の建材は使用しない。 ただし、やむを得ずアスベスト含有建材を使用する場合は事前に監督員と協議を行うこと。	
	7 中間技術検査	・ 低入札価格調査基準価格を下回った額で契約となった場合は、中間技術検査を1回実施する。 検査時期については、工事現場着手前に監督員と協議すること。	
	8 有価物について	当該工事における、有価物については下記の通り取り扱う。 (1) 鉄くず等金属類及び電線等は有価物として処分を行うこと。 (2) 数量はスクラップ業者の計量伝票を根拠とする。 (3) 鉄くず等有価物の売り払い明細書を作成し、内容を明らかにしたうえで市に納入すること。 (4) 納入方法は契約後に市が発行する納付書により入金をする事と。	

<表－1> 設計用標準水平度

設置場所	機器種別	「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説 平成8年版」による耐震安全性の分類			
		・ 特定の施設（ ・ 甲類 ・ 乙類 ）		・ 一般の施設（ ・ 乙類 ）	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機 器	2. 0	1. 5	1. 5	1. 0
屋上及び塔屋	防振支持の機器	2. 0	2. 0	2. 0	1. 5
中間階	機 器	1. 5	1. 0	1. 0	0. 6
	防振支持の機器	1. 5	1. 5	1. 5	1. 0
地下・1階	機 器	1. 0	0. 6	0. 6	0. 4
	防振支持の機器	1. 0	1. 0	1. 0	0. 6
重要機器： ・ 配電盤 ・ 発電装置 ・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ 交換機 ・ 火災報知受信機 ・ 中央監視装置 ・					
上層階の定義： 2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。					

<表－2> EM電線の記号および仕様

記 号	仕 様
EM－CEES	JCS 4258 D(制御用ケーブル(遠へい付))準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－UTP	JIS X 5150により、絶縁材にJIS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－MEES	JIS 3271 A(MVVS)に準じ、絶縁材及びシースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの
EM－EBT	EBT（電子レンジ電話用ケーブル）に準じ、シースにJCS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの

<表－3> あと施工アンカー

1 共通事項	(1) 既設のアンカー及びアンカースクリューは原則として使用しない。やむを得ず既設のアンカー及びアンカースクリューを再利用する場合は、状態及び強度をよく確認し、十分に清掃してから使用する。 また、引張強度の確認試験については下記による。 () (2) あと施工アンカーについては機械設備工事標準図（施工19）による。 (3) 穿孔作業には、専用ドリル、振動ドリルやハンマードリル等を使用し、必要埋設深さを確保するため、穿孔深さのドリルへの表示やスリッパ付きドリルの使用等を行う。
2 重要機器用のあと施工アンカー	(1) 重要機器の耐震固定等に使用するあと施工アンカーは金属拡張アンカー又は接着系アンカーとし、耐震計算にて選定を行う。 (2) 金属拡張アンカーの仕様は、次による。 (7) 金属拡張アンカーは、(社)日本建築あと施工アンカー協会の金属系あと施工アンカー品質性能判定表の性能を満足する製品とする。 (4) 金属拡張アンカーの取り付け方法は、図示による。図示がなければ、本体打込み式とする。 (9) 金属拡張アンカー本体の径及び埋め込み深さは、図示による。 (1) スクリュー部の種類、径及び長さは図示による。 (3) 接着系アンカーの仕様は、下記による。なお、下記により施工が困難な場合は、監督員と相談すること。 (7) 接着系アンカーは、(社)日本建築あと施工アンカー協会の接着系あと施工アンカー品質性能判定表の性能を満足する製品とする。 (4) 接着系アンカーは、カプセル型とし、接着剤の材質及びカプセルの種類は図示による。 (9) 接着系アンカーの埋込深さ及び許容引拔荷重については、機械設備工事標準図（施工19）による。 (4) あと施工アンカーの施工には、工事内容に相応した施工の指導を行うあと施工アンカー技術管理士又は主任技士を置く。 (5) あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有する主任技士又は第1・2種あと施工アンカー施工士とする。 (6) あと施工アンカーの撤去は、専用の工具を使用し、構造物に影響を与えないようにすること。

<表－4> 用語の説明

(1) 「撤去」とは、既存物を壊し取ること。
(2) 「取外し」とは、再使用を考慮して、丁寧に外すこと。
(3) 「撤去・新設」とは、既存物を撤去し、新たな物を設置すること。
(4) 「取外し・再取付け」とは、既存物を取外し、同じ物を取付けること。 [1-1.4.3]
(5) 「備品移動」とは、工事の施工に支障となる備品を一時的の場所に保管し、工事終了後に元の場所に戻すこと。

<表－5> 発生材の処理等

1. 再生資材の利用				
下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。				
再生資材名	規 格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備 考
2. 建設発生土の利用				
盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。				
発 生 機 関	工 事 名	発 生 場 所	施工会社名・連絡先	備 考
3. 建設発生土の搬出				
工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。				
受入工事名／施設名称				
工事場所／施設所在地				
連絡先				
仮置場所の有無				
備 考				
4. 建設廃棄物の搬出				
工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし積算している。				
搬出する廃棄物名				
処理施設名称				
施設所在地				
連絡先				
備 考				
上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。				
5. 建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。				
6. 自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。				
7. 協議について				
建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員に報告し、協議すること。				

<表－6> 工事区分表

注) 原則〇印を適用する。 ただし、複数記載してある項目についての区分はその項目を必要とする施工者に適用する。									
項 目		建	電	空	衛	昇			備 考
躯体関係									
1. RC造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通スリット材及び取付け		〇	〇	〇	〇			
	補強を要する型枠材及び取付け		〇						
	補強を要しない型枠材及び取付け		〇	〇	〇	〇			防火区画、防煙区画
	貫通孔・開口部の引出し		〇	〇	〇	〇			防火区画、防煙区画
	貫通孔・開口部の補強		〇						
2. S・SRC造 ・はり貫通口	スリット・型枠の穴埋め		〇	〇	〇	〇			
	S・SRC造貫通鋼管鋼管スリット・補強		〇						
	使用されたスリットの穴埋め		〇	〇	〇	〇			
3. 設備機器の基礎	予備スリットの穴埋め		〇	〇	〇	〇			
	建築設計図に記入のあるもの		〇						
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		〇	〇	〇				
	屋外・屋上の基礎		〇						
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの		〇	〇	〇				
仕 上 げ 関 係	機器取付け用アンカー・架台		〇	〇	〇				
	屋内受水タンクの基礎		〇						
軽鉄天井 ・壁下地	補強を用するスリットの切り込み及び下地の補強		〇						
	補強を用しないスリットの切り込み			〇	〇				
	開口部の引出し			〇	〇				
電気関係									
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地線共）			〇	〇				二次側
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線			〇					一次側
	機器と付属操作スイッチの取付け及び渡り配管配線			〇	〇				
そ の 他（工事区分を特に間違えやすい項目）									
天井材の取外し再取付	各種配管配線作業用		〇	△	△	△			小規模は監督員と協議
床はつり補修	各種配管配線作業用		〇	△	△	△			小規模は監督員と協議
流し台、ガス台			〇						
便所手洗いカウンター			〇						衛生陶器は衛生設備
洗面化粧台					〇				
誘導標識			〇						誘導灯は電気設備
ガス漏れ警報器					〇				ガス漏れ火災警報設備は電気設備
24H換気扇	機器納入				〇				
運動スイッチ	取付			〇					
湯沸器	機器納入				〇				
運動スイッチ	取付				〇				
上記以外換気扇スイッチ	機器納入、取付			〇					

<表－7> 機器取付高

名称		測点	取付高（mm）
電力共通	取引用計器	地上 - 上端	※ 2, 0 0 0 ●
	引込開閉器	〃	※ 1, 8 0 0 ●
電 灯	分電盤	床上 - 中心	※ 1,500（上端1,900以下）
	タンブラスイッチ（一般）	〃	※ 1, 3 0 0 ●
	〃（身障者用）	〃	※ 9 0 0～1, 0 0 0
	コンセント（一般）	〃	※ 3 0 0 ●
	〃（和室）	〃	※ 2 0 0 ●
	〃（台上）	台上 - 中心	※ 1 5 0 ●
	ブラケット（一般）	床上 - 中心	※ 2, 1 0 0 ●
	〃（踊場）	〃	※ 2, 5 0 0 ●
	〃（鏡上）	鏡端 - 中心	※ 1 5 0 ●
	〃（浴室）	床上 - 中心	※ 天井高×0. 9 ●
	非常照明器具用遮断器	-	※ 1, 2 0 0
	避難口誘導灯	床上 - 下端	※ 1, 5 0 0以上 ●
動 力	廊下通路誘導灯	床上 - 上端	※ 1, 0 0 0以下 ●
	壁掛型制御盤	床上 - 中心	※ 1, 5 0 0 ●
電 話	手元開閉器	〃	※ 1,500（上端1,900以下）
	操作スイッチ・押ボタン	〃	※ 1, 3 0 0 ●
	室内端子盤	床上 - 下端	※ 3 0 0 ●
	中間端子盤	床上 - 中心	※ 1, 5 0 0 ●
	保安器箱	〃	※ 天井高×0. 9 ●
表示・電鈴	壁掛位置ボックス（一般）	床上 - 中心	※ 3 0 0 ●
	〃（和室）	〃	※ 2 0 0 ●
時計	壁掛形観時計	床上 - 中心	※ 1,500（上端1,900以下）
	子時計	〃	※ 天井高×0. 9 ●
拡 声	壁掛形スピーカー	床上 - 中心	※ 天井高×0. 9 ●
	壁付音量調整器	〃	※ 1, 3 0 0 ●
表示・電鈴	表示盤	床上 - 中心	※ 天井高×0. 9 ●
	壁付発信器	〃	※ 1, 3 0 0 ●
	ブザー・ベル	〃	※ 天井高×0. 9 ●
	押ボタン（一般）	〃	※ 1, 3 0 0 ●
インターホン	〃（身障者用）	〃	※ 9 0 0～1, 0 0 0
	壁付インターホン	床上 - 中心	※ 1, 3 0 0 ●
	身体障害者用	〃	※ 1, 0 0 0 ●
	壁付位置ボックス（一般）	〃	※ 3 0 0 ●
テレビ	〃（和室）	〃	※ 2 0 0 ●
	機器収容箱	床上 - 中心	※ 1, 5 0 0 ●
火 災 報 知 器	テレビアウトレット（一般）	〃	※ 3 0 0 ●
	〃（和室）	〃	※ 2 0 0 ●
	受信機・副受信機	床上 - 操作部	※ 8 0 0～1, 5 0 0
	専用総合盤	床上 - 中心	●
ガス警報器	発信器	〃	●
	ベル	〃	● 2, 3 0 0 ●
	消火栓・表示灯	〃	※ 2, 1 0 0
	試験器	〃	※ 1, 5 0 0
ガス警報器	L Pガス用	床上 - 上端	※ 3 0 0以内
	都市ガス用	天井面 - 下端	※ 3 0 0以内

工事番号・工事名			日付	図面番号
4学工第39号 小出中学校特別教室エアコン設置工事			2022年7月	
図面名称			縮尺	
魚沼市教育委員会 学校教育課			N. S	E- 03
電気設備 特記仕様書（2）				

機 器 表

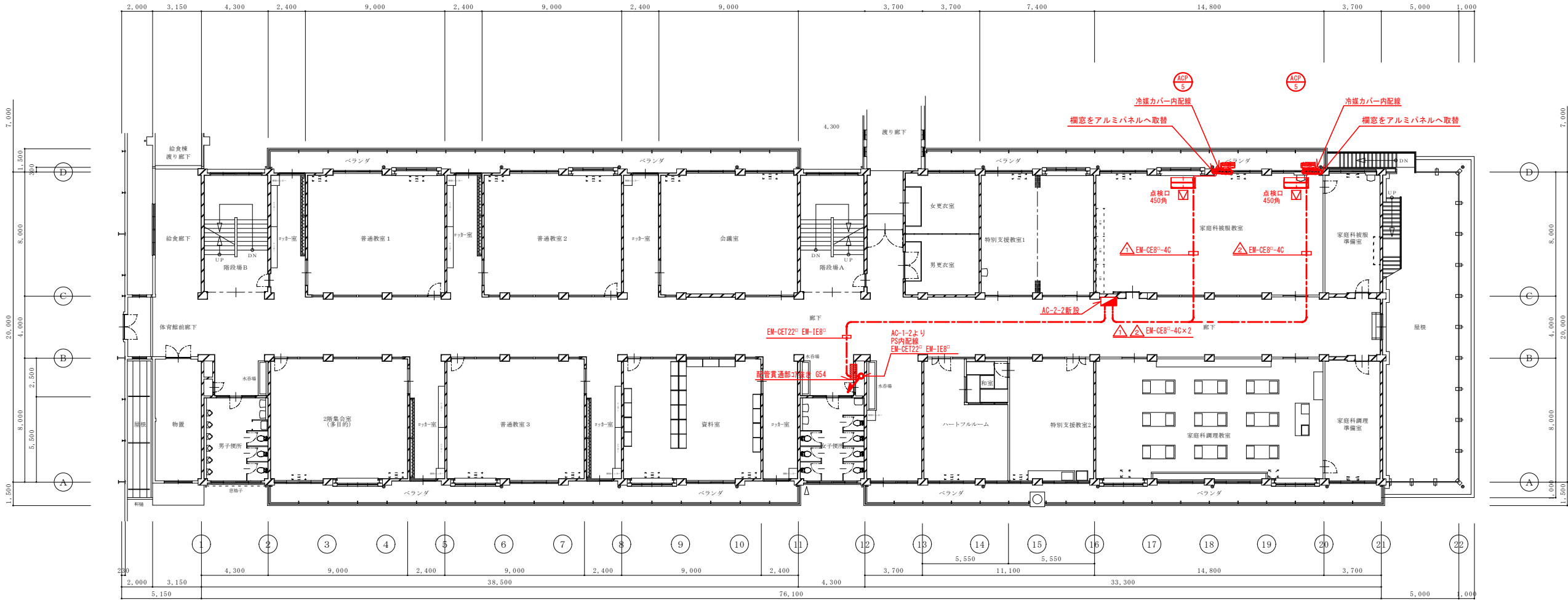
記 号	機 器 名	仕 様	設置場所	台 数	電 力			付 属 品
					相	電 源 (V)	容 量 (kW)	
ACP-5	空冷パナソニック1733	天井吊り型 ワイヤードリモコン	2F被服教室	2	3	200	3.21	室外機壁用ブラケット架台 (溶融亜鉛めっき)
		冷房能力 10.0kW						リモコン
		圧縮機 2.16kW						室外機用防護ネット
		送風機 室内 0.139kW 室外 0.100kW						

注記
1. 室内-室外機連絡線はEM-OEE2.0口-3C (冷媒管共巻)
2. リモコン線はEM-ECTF1.25-2C (メタル製にて立下げ)
3. 配管窓貫通部は76mm 枠に交換

分 電 盤 結 線 図 (新 設)

盤 名	主幹ブレーカ	回路NO	負 荷 名	容量 (KW)	運転電流 (A)	分岐ブレーカ	始動方式	操作・制御 方式	操作・制御 スイッチ	通 勤
AC-2-2 (露出型)	ELCB 3P150AF/100AT	△1	2F被服教室① ACP-5	3.21	10.1	MCCB3P 50/20	L			
		△2	2F被服教室② ACP-5	3.21	10.1	MCCB3P 50/20	L			
		△3	2F調理室① ACP-5 (将来用)	3.21	10.1	MCCB3P 50/20	L			
		△4	2F調理室② ACP-5 (将来用)	3.21	10.1	MCCB3P 50/20	L			
		△5	2Fハートフルルーム ACP-1 (将来用)							
AC-1-2より 3Φ3W 200V CET22 ²¹ 200V CET22 ²¹	合計 6.42KW	△	予備							

---	天井内こしがし配線
- - -	露出配管配線
■	分電盤 AC-2-2
□	点検口 450角



小出中学校 2階平面図

機 器 表

記 号	機 器 名	仕 様	設 置 場 所	台 数	電 力			付 属 品	備 考
					相	電 源 (V)	容 量 (kW)		
A C P - 5	空 冷 機 (水冷型)	天井吊り型 ワイヤードリモコン	3F第2理科室	2	3	200	5.70	室外機壁掛ブラケット架台 (溶融亜鉛めっき)	
		冷房能力 10.0kW						リモコン	
		圧縮機 2.16kW						室外機用防護ネット	
		送風機 室内 0.139kW 室外 0.100kW							

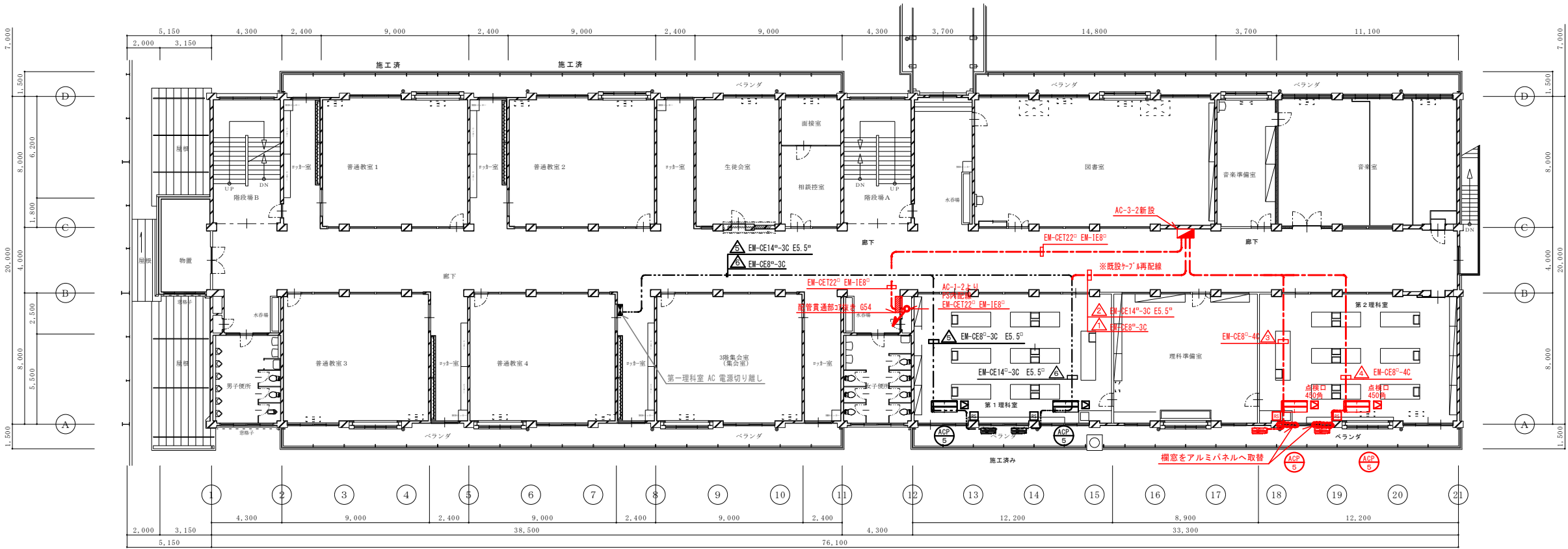
注記
1. 室内-室外機連絡線はEM-OEE2.0口-3C (冷媒管共巻)
2. リモコン線はEM-ECTF1.25-2C (マルチプルにて立下げ)
3. 配管窓貫通部は75mm 別に交換

分 電 盤 結 線 図 (既 設)

盤 名	主幹ブレーカ	回路NO	負 荷 名	容量 (KW)	分岐ブレーカ	始動方式	操作・制御方式	操作・制御スイッチ	連動	備考
AC-3-1 (露出型) 上部ダクト付 AC-1-1より 3Φ3W 200V CET38°	ELCB 3P225AF/125AT 合計 17.1KW	1	3F普通教室1 ACP-4	5.70	MCB3P 50/30	L				
		2	3F普通教室2 ACP-4	5.70	MCB3P 50/30	L				
		3	3F普通教室4 ACP-4	5.70	MCB3P 50/30	L				
		4	将来用：3階集会室東 ACP-4		MCB3P 50/20	L				AC施工時 プレーカ取替
		5	将来用：3階集会室西 ACP-4		MCB3P 50/20	L				AC施工時 プレーカ取替

分 電 盤 結 線 図 (新 設)

盤 名	主幹ブレーカ	回路NO	負 荷 名	容量 (KW)	分岐ブレーカ	始動方式	操作・制御方式	操作・制御スイッチ	連動	備考
AC-3-2 (露出型) 上部ダクト付 AC-1-2より 3Φ3W 200V CET38°	ELCB 3P100AF/100AT 合計 12.81KW	1	3F第1理科室 (前側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				AC3-1より再配線
		2	3F第1理科室 (後側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				AC3-1より再配線
		3	3F第2理科室 (前側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				
		4	3F第2理科室 (後側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				
		5								



3 階 平 面 図 S=1:150

[illegible]

機 器 表

記 号	機 器 名	仕 様	設置場所	台 数	電 力			付 属 品
					相	電 源 (V)	容 量 (kW)	
A C P - 5	空 冷 ﾎﾞｯｸｼﾞﾝ 17ｺﾝ	天井吊り型 ﾜｲﾔｰﾄﾞﾘﾓﾝ	2F 被服教室	2	3	200	3.21	室外機壁用ﾌﾞﾗｯｸﾄﾞﾗｲﾔｰ (溶融亜鉛めっき)
		冷房能力 10.0kW						リモコン
		圧縮機 2.16kW						室外機用防護ネット
		送風機 室内 0.139kW 室外 0.100kW						

- 注 記
1. 室内-室外機連絡線はEM-OEE2.0口-3C (冷媒管共巻)
2. リモコン線はEM-ECTF0.75-2C (ﾏﾀｰﾖｰﾙにて立下げ)
3. 配管窓貫通部はｱﾙﾐﾝ ｷﾅに交換



小出中学校 2階平面図

機 器 表

記 号	機 器 名	仕 様	設 置 場 所	台 数	電 力			付 属 品	備 考
					相	電 源 (V)	容 量 (kW)		
A C P - 5	空 冷 機 (冷 房)	天井吊り型 ワイヤードリモコン	3F第2理科室	2	3	200	5.70	室外機壁掛75kg以上台 (溶融亜鉛めっき)	
		冷房能力 10.0kW						リモコン	
		圧縮機 2.16kW						室外機用防護ネット	
		送風機 室内 0.139kW 室外 0.100kW							

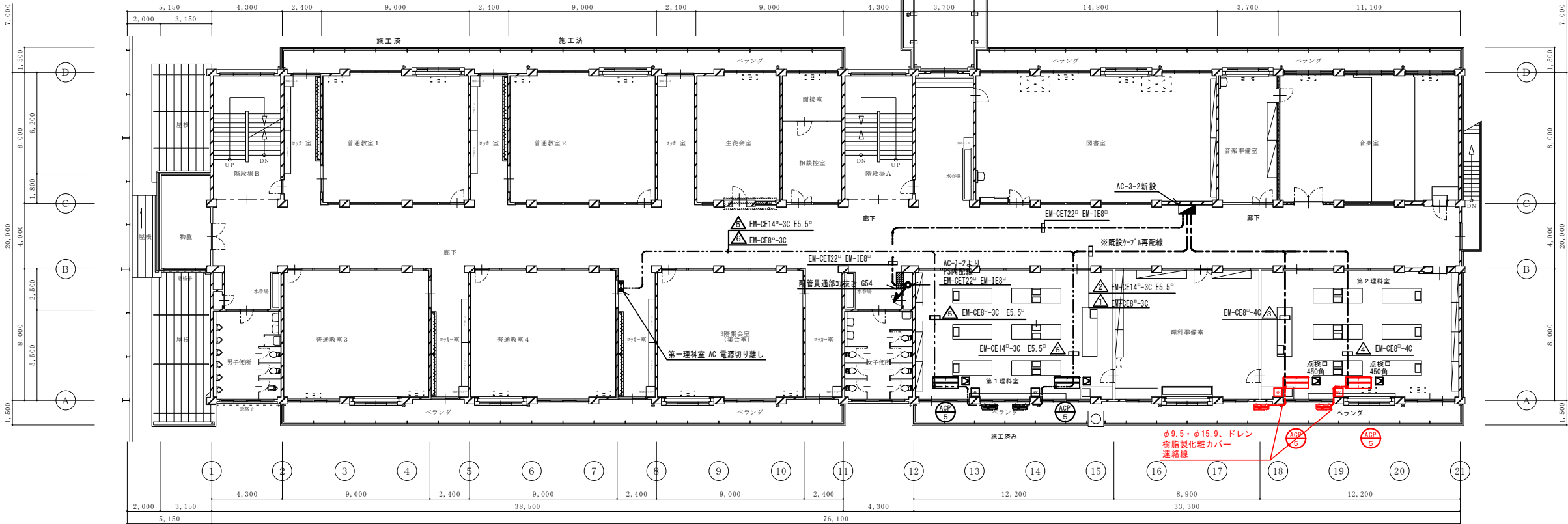
注記
1. 室内-室外機連絡線はEM-CEE2.0口-3C (冷媒管共巻)
2. リモコン線はEM-ECTF1.25-2C (マルチ用にて立下げ)
3. 配管窓貫通部は75mm 部に交換

分 電 盤 結 線 図 (既 設)

盤 名	主幹ブレーカ	回路NO	負 荷 名	容量 (KW)	分岐 ブレーカ	始動方式	操作・制御 方式	操作・制御 スイッチ	連動	備考
AC-3-1 (露出型) 上部ダクト付 AC-1-1より 3Φ3W 200V CET38°	<div>ELCB 3P225AF/125AT</div> <div></div> <div>合計 17.1KW</div>	<div></div> 3F普通教室1 ACP-4	5.70	MCB3P 50/30	L					
		<div></div> 3F普通教室2 ACP-4	5.70	MCB3P 50/30	L					
		<div></div> 3F普通教室4 ACP-4	5.70	MCB3P 50/30	L					
		<div></div> 将来用：3階集会室東 ACP-4		MCB3P 50/20	L				AC施工時 プレーカ取替	
		<div></div> 将来用：3階集会室西 ACP-4		MCB3P 50/20	L				AC施工時 プレーカ取替	
		合計 17.1KW								

分 電 盤 結 線 図 (新 設)

盤 名	主幹ブレーカ	回路NO	負 荷 名	容量 (KW)	分岐 ブレーカ	始動方式	操作・制御 方式	操作・制御 スイッチ	連動	備考
AC-3-2 (露出型) 上部ダクト付 AC-1-2より 3Φ3W 200V CET38°	ELCB 3P100AF/100AT 合計 12.81KW	①	3F第1理科室 (前側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				AC3-1より再配線
		②	3F第1理科室 (後側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				AC3-1より再配線
		③	3F第2理科室 (前側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				
		④	3F第2理科室 (後側) ACP-5	3.21	MCB3P 50/20	L				
		⑤								



3 階 平 面 図 S=1:150